

最新保存版
レポート

いま全国で最高の老人ホームはここだ

高齢者住宅のプロが選出した
「リビング・オブ・ザ・イヤー2018」ファイナリスト7が決定!

10月12日、「リビング・オブ・ザ・イヤー2018」の決勝戦が開かれる。「リビング・オブ・ザ・イヤー」とは、高齢者住宅経営者連絡協議会（高経協）が主催し、介護付き有料老人ホームや特別養護老人ホーム（特養）など全国にある高齢者施設から、最も優れたホームを決めるコンテストだ。14年に始まり、今年で5回目。審査員は介護施設の経営者やケアマネジャーなど「介護のプロ」21人が務めている。審査員の1人で高経協の総監督・田村孝さんが振り返る。

「決勝の1か月前にファイナリストの7施設が決まりましたが、その会議は例年になく議論が白熱していました。21人全員の承認を得て決まった7施設は、本当に入りたい、と思っただけで自信のある施設です」
最近では高齢者施設での事故や事件が多く、自分や家族の身を預けることへの不安も大きい。「プロの目」で選ばれた施設の特徴は、今後の老人ホーム選びの参考になるだろう。

食事量や診療回数を24時間チエック
家族が安心できて超リーズナブル



入居者はもちろん、家族もカフェを利用できる。



施設の周りには自然も豊かだ。

2015年5月 ⑤25万円～
⑥17万8000円～ ⑦19.76㎡

介護業界はIT活用が進んでいる。「クライチ・ファミリア古淵」も積極的に活用する施設の1つだ。「ユカリケア」という自社開発のシステムで、食事の摂取量や訪問診療の受診状況を記録しています。記録し

クライチ・ファミリア古淵(神奈川県相模原市)

た情報はご家族がいつでも把握できるように専用サイトを通じて情報開示している。ご家族の安心や信頼に繋がる「好評です」(施設長の勝村雄二さん)
食事にも力を入れていて、2年前の「リビング・オブ・ザ・イヤー2016」では食事サービス部門で準決勝まで進んだ。
「月に1、2回、「お食事キャラバン」というイベントがあります。板前が寿司を握り、本格的なフレンチや和食のフルコースが楽しめる。ほかにも、毎日バリスタが入れた本格コーヒーや焼き立てのクロワッサンを味わうことができ、バーでは昼夜を問わずお酒が楽しめます」(勝村さん)
これで入居金は0円、月額費用も17万8000円からと、食費も込みで、リーズナブルな点も評価されている。

80才の人が居室に単身で入居した場合の想定で、「入居一時金」が最も安いプランを掲載。
⑧開設年月、⑨入居一時金、⑩敷金、⑪前払い家賃、⑫月額費用、⑬個室の広さ

JRの関連会社という「お墨付き」 生活のハリを生む地域密着型

NRE大森弥生ハイツ(東京都大田区)



図書館はおしゃべり自由。

今年の選考で特に重視されたのが「社会と施設のかかわり」である。この新基準で特に好評を得たのが「NRE大森弥生ハイツ」だ。

「地域密着を掲げる施設は多いですが、リスク管理が難しい。この施設を運営するNREはJRのグループ会社なので安全管理に厳しく、地域交流の場として成功させていて見事です」(前出・田村さん)

2004年4月 ⑤50万円(入居保証金)
⑥26万2800円 ⑦18㎡

「高齢者施設に住むと、日々の生活が施設内だけで完結してしまい、外出の機会が少なくなる。そうすると生活のハリがなくなりますが、このホームは「地域との一体化」を理念に、1階ロビーや多目的室、図書館などを地域に開放。ベビーカーを押すマダグルーブや近隣のお年寄りが自由に出入りし、憩いの場になっています」(高経協の事務局長・碓田茂さん)

「近隣のお母さんたちは、お子さんを連れて夕方時間帯に来てくれるんです。というのも、認知症の1つに「夕暮れ症候群」といって、夕方になると寂しくなったり不安になったりしてソワソワ落ち着かなくなることがある。でも子供たちと一緒に過ごす時間は症状が和らぎますし、食欲も出るんです」
古き良き日本の「こ近所づきあい」を感じる施設だ。

他にはない「ガーデニング」効果で 脳の活性化と認知症ケア

玄関を入ってすぐのロビーには中庭を一望できる大きな窓がある。足を踏み入れると、1本の大木の周りに四季折々の数十種類の花が咲き乱れていた。美しい庭の効果は、見て癒される。



花はビタミシカラーが中心。

ロビーは吹き抜けて開放感がある。

「この施設では、庭に行きましよう、が合言葉。入居者のかたにお花を植えてもらったり、集まってお茶をしたり、摘んでお部屋に飾ったりという楽しい活動もしています。入居したときに車イスだったかたが、毎日庭に出たことで歩けるようになったり、明るい表情になったりと、効果を感じています」
庭ではガーデニングのほか、トマトやきゅうり、かぼちゃ、メロン、すいかなどの野菜や果物も育てていて、収穫して旬の食材を味わうこともできる。「ガーデニングは認知症ケア療法の1つです。例えば花を見たりにおいをおいしたりすることで昔の記憶を呼び戻したり、自分で植えた花が育ち喜びを感じることで、脳が活性化される効果があります」(前出・田村さん)
施設で最期を迎えた入居者には、生前好きだった庭の花を摘んで棺に納めることもあるという。また、スタッフ1人に対する入居者の比率が1.5人と手厚いこともこの施設が評価される理由の1つだ。

2003年4月 ⑤2757万円
⑥24万円 ⑦18.2㎡

老後の蓄えと体力が増していく 「仕事付き老人ホーム」で「生現役」

取材した日の昼食は流しそうめん。天然竹の樋が並び、両脇に座った入居者が流れてきたそうめんを歓声を上げながら楽しそうにすくっていた。

「クロスハート石名坂・藤沢」は、「特定施設入居者生活介護」の指定施設。入居者が可能な限り自立した生活を送れるよう食事や入浴などの日常生活上の支援だけでなく、機能訓練など



大盛況の量食イベント。

「施設内通貨」が入居の決め手になる人も多い。

2010年8月
月16万4000円
13㎡

を提供。ここでは、入居者が意欲的に訓練を受けられるようある制度が導入されている。

「食器の配膳や下膳をしたり、他の入居者の介護を手伝ったりすると、『施設内通貨』という形で報酬を渡していきます。その通貨は月に一度の『交流会』で日用品や食品と交換でき、皆さん喜んで真剣に取り組んでくださるんです」（施設長の藤澤祐人さん）

この施設に入居している柳澤正子さんは「通貨」の高額保持者だ。「私、毎月交換会が楽しみなんです。スタッフに言えば普通に外で買い物もできますけど、この場所でもみんなでワイワイやるのが楽しい。女性ってやっぱり買いたい物が好きなのよね」

この施設は介護付き有料老人ホームでありながら、仕事付き有料老人ホームも自称している。「施設近くにビニールハウスがあり、そこで野菜を育てているんですが、その栽培のお手伝いをするので入居者のかたは収入も得ています。入居者のご家族からは、うちの母が、仕事を頑張りすぎて腰が痛いと言っています、と嬉しそうに話してくれました。もちろん無理をするわけではありません。一生現役でいたい、一生誰かの役に立ちたい、そう思うかたにとって仕事は喜びに繋がる。すべては、元気に暮らしてもらいたい、という思いからです」（藤澤さん）

トとしての専門的な研修を受けたスタッフから、東洋医学のアーユルヴェーダを取り入れたリラクゼーションを週に1〜2回受けられる。食事は選択制だが、管理栄養士が一人ひとりの体調を把握して考えている。

入居者の古郡恵美子さん（84才）は、膝の関節炎や重い糖尿病で要支援2の認定を受けて今年2月に入居。その後、大腿骨骨折で1か月の入院を余儀なくされた。

古郡さんが言う。「退院して戻ってきたときは、車イスに自分で降り降りすることもできなくなりました。でもリラクゼーションで疲れをとったり、スタッフのかたが根気強くリハビリに付き添ってくれたりして、3か月で歩行器を使って自力で歩けるようになった。以前はインスリン注射も打っていたんだけど、最近のはみ薬だけに、最近は塩分控えめなのにおいしいのよ」

高齢者がけがをして入院すると、寝たきりになって体力が衰えたり、認知症が進んだりしがちだ。薬に依存せず、自力で回復力を高めていく取り組みが評価された。

セラピストのリラクゼーションと薬膳料理で「癒し」にこだわる

コンシェル舞浜（千葉県浦安市）



支配人の佐藤さん。

2017年11月
月17万4200円
21㎡

入居者は、無料でリラクゼーションを受けられる。

「弊社には「介護から快護へ」をコンセプトに介護事業を展開しています。コンシェル舞浜では「癒食同源」をテーマに、健康維持と介護予防のための独自のリラクゼーションと、薬膳理論に基づいた食事を提供しています」

開設後わずか半年で満床に まるでホテルの「おもてなし空間」



施設は和モダンなつくり。



演奏会や祭りなど、地域交流のイベントが多い。

関東圏以外で、しかも特養で唯一選出されたのが「せりりよう姫島」。

「運営する『聖綾福祉会』はビジネスホテルチェーン「スーパーホテル」のグループ会社です。この施設の職員もホテルのインストラクターから研修を受けていて、挨拶や何気ない気遣いにホスピタリティー精神を受け継いでいるのが感じられます。見学に行った審査員が、こんなに違うのかと驚きました」と言うほどです」

（前出・田村さん）

「入居者ファースト」を掲げ、さまざまなサービスが用意されている。地域の楽団を招いての定期演奏会、屋上を開放しての「アフタヌーンティー」など接客・接遇に特に力を入れており、「おもてなし」の意識は高い。

10月12日、この中から大賞が選ばれる。大賞発表は一般客の観覧も可能だ。長い老後を、自分の納得できる施設で過ごしたい。

2017年12月
月5万6000円
17.1㎡

「家に帰りたい」夢プロジェクトで 車イス→杖で歩けるまで回復

アズハイム練馬ガーデン（東京都練馬区）



屋上にリハビリ用スペースがある。

介護業界でも「働き方改革」が進んでいる。団塊世代が75才を超えて後期高齢者となる「2025年問題」に備え、業務の効率化はすべての施設が抱える問題だ。

「アズハイム練馬ガーデン」は夜間の常駐を1人から2人に増やすなど、働く人の負担を軽減し、その分入居者のかたがたに余裕のあるケアができるようになりました」（前出・碓田さん）

それを実現するために活用されているのがITだ。ベッドマット型の見守りシステム「眠りSCAN」が入居者の睡眠状況・心拍数・呼吸数を把握。情報を「E-GAOLink（エガオリンク）」というシステムで一括管理している。

2017年6月
月60万円
月39万5000円
18.12㎡

従来のような情報はスタッフが手作業で記録していたので、大幅な効率アップとなり、入居者へのケアやリハビリにより時間をさけるようになった。入居者は個別に1週間のリハビリスケジュールが組まれるが、車イスでしか動けなかった人が歩行器や杖を使って歩けるようになるなど、効果を実感する入居者は多い。

そのリハビリの目標を設定する「夢プロジェクト」という取り組みもこの施設の特徴だ。「例えば、自宅に帰りたい。でも自宅の前には長い階段がある」ということであれば、じゃあ階段を上れるまでリハビリをしてご自宅に行きましょう、とお伝えする。その目標のために日々何をすれば叶えられるのかを、日常の動作に落とし込んで考えていきます。そうすることでリハビリも楽しんで行えますし、回復も早いです」（ホーム長・小川恵子さん）



週1回の「ネイルの日は女性に人気」